備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成25年度事業）

事業の概要

事業開始年度			昭和46年以前	根拠法令・例規等		障害者総合支援法 要約筆記奉仕員派遣事業実施要綱 日常生活用具給付事業実施要綱等
総合計画	大項目	基本構想	04　土台となる政策「安全・安心」			
総合計画	中項目	基本計画	06　誰もがいつまでも安心して暮らせるまち	問合先	担当課（室）	社会福祉課
総合計画	小項目	施　策	20　障がいのある人への福祉の充実	問合先	職・氏名	課長補佐　春森　弘晃
事務事業名			04　障害者福祉増進事業	問合先	電　話	64-1824
				このシートの作成に要した時間		1.5　時間

Plan

事業の目的

対　象 （誰・何に対して）	知的・身体障がい者
目　的 （何のために）	障がい者がスポーツを通じて交流を深め、大会等へ参加することで福祉の増進を図る。また、身体障がい者の社会参加、自立更正を進める。
事業の意図する成果 （どのような状態にしたいのか）	障がい者がいろいろなスポーツ大会等に参加・交流を深めることで福祉の増進を図りたい。

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
身体障害者福祉増進事業	岡山県障害者スポーツ大会への参加を促進し、福祉の増進を図る。	○
身体障害者福祉協会補助事業	補助を行うことで身体障がい者の社会参加、自立更正を進める。	○
発達障害者支援体制整備事業	発達障害に関する市役所内の連携に関する整備を進める。	◎

決算額

事業費等		単位	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績
事業費	直接事業費	千円	834	691	1,599
事業費	必要人員／人件費	千円	0.06人　436	0.25人　1,823	0.56人　4,199
事業費	事業費計	千円	1,270	2,514	5,798
財源	国県支出金	千円			357
財源	受益者負担	千円			
財源	繰入金	千円			
財源	市債	千円			
財源	その他（　　）	千円			
財源	一般財源	千円	1,270	2,514	5,441
受益者負担比率		%	－	－	－

結果指標

結果指標名		単位	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績
スポーツ大会参加人数		説明	岡山県スポーツ大会に参加した人数		
	結果指標量	人	45	38	49
	対前年比	%	－	84.4%	128.9%
	活動コスト	円	1,270,000	2,514,000	5,798,000
	単位当たりコスト	円	28,222	66,158	118,327

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度目標値
スポーツ大会参加者	目標値（A）	70	70	60	50
	実績値（B）	45	38	49	到達目標値
	達成率（B/A）	64.29%	54.29%	81.67%	70

成果指標設定の考え方・式や説明

岡山県スポーツ大会への参加者数

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

Check

事務事業の評価

該当する項目を☐から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞

妥当性の評価（市の関与の妥当性・必要性／市民ニーズ）

- ☐ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- ■ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- ☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- ■ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ☐ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている
- ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ■ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- ☐ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**C**

効率性の評価（コスト・手段）

- ☐ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- ☐ 受益者負担率は適正である
- ■ 受益者負担率を見直す余地がある
- ■ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- ■ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ☐ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**C**

有効性の評価（目的達成度・市民参画度）

- ☐ 成果指標の設定は適切である
- ☐ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- ☐ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- ☐ 成果指標達成率は80%未満となっている
- ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- ☐ 法定事務　・　内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ■ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**C**

進行年度（H26年度）の改革改善内容

	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
状　況		○					

説　明：スポーツ大会の参加者が年々減少していることから、積極的に広報等で情報提供し、参加者を増やすように努める。発達障害に関する取り組みは今後も継続して行う。

総合評価

大会に参加する選手だけでなく、応援者の参加もあり、障がい者同士の親睦が図られており、目的に沿った事業が実施されている。

総合評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**C**

Action

平成27年度の方向性・取組目標

	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
方向性		○					

取組目標：スポーツ大会の参加者が年々減少していることから、積極的に広報等で情報提供し、参加者を増やすように努める。